

11/2(土)  
開催!

→大会詳細はP.4へ

平均速度  
約50 km/h

※チームタイムトライアルレースの場合

第10回

ツール・ド・フランス  
さいたまクリテリウム

さいたま市の軌跡



©Yuzuru SUNADA



- オフィシャルロゴが入ったラベルのメモリアルワインを限定販売。
- レースの模様を全世界120か国以上で放送。現在は190の国と地域で放送している。

2014

### 海外選手との文化交流

- 海外メディアも多数取材に。
- 本家ツール・ド・フランスの優勝者も参加!
- 海外からの出場選手への文化交流会を実施。



©Yuzuru SUNADA

さいたま  
新都心駅

2013 START

「さいたまクリテリウム  
by ツール・ド・フランス」  
の名称でスタート。

### クリテリウムって?

短いコースを周回するレースのこと。今年のメインレースでは  
1周3.6km×17周、全長  
約60kmのコースを走る。

### サイクルフェスタ・さいたましえ

自転車に関するイベントのほか、大画面でのパブリックビューイングを実施!  
けやきひろばでは、本場フランスや地元さいたまの“食”が楽しめるイベントを同時開催!



2013 ▶



©A.S.O.\_Pauline\_Ballet

今年で第10回を迎える「J:COM presents 2024 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」。2013年に世界で初めて、世界最高峰の自転車レースである「ツール・ド・フランス」の名を冠してスタートしたこの大会と、「自転車のまち」さいたま市の軌跡を辿ってみましょう!

表紙写真: Yuzuru SUNADA

今月の市報さいたまプラス  
今大会の見どころはココ! ▶



## 自転車のまちさいたま市としての取り組み

2014▶

市内の自転車通行環境整備路線を大幅拡大!



16km  
(2014年)  
▼  
216km  
(2023年)

2017▶

さいクルステーション

自転車に乗る方が気軽に休息できる「さいクルステーション」を認定。



2018▶

シェアサイクル普及事業実証実験の開始

ポート数は大幅増加!

142箇所  
(2018年11月)  
▼

453箇所  
(2024年7月)

自転車事故の減少

1,677人▶1,123人  
(2014年)  
(2023年)

2024▶

電動サイクルのシェア開始



2月から、ペダルを漕がずに走行できる電動サイクルのシェアを開始。

## スプリントレース初開催

4人1組のレースを開催(2019年まで)。



さいたま  
スーパーアリーナ

2017

## 一般参加型ライドイベント「Road to さいたまクリテリウム」初開催

優勝選手を大会当日のタイムトライアルレースに招待。



2018

## 日本人選手が初優勝



メインレースを  
制した新城幸也  
選手。

本家レースで成績  
トップの証(ジャ  
ージ)を持つ4選手が  
出場!

2016



©Yuzuru SUNADA

## パラサイクリング選手が初参加

- 7組8人のパラサイクリング選手が個人タイムトライアルレース等に出場!
- 「J:COM presents ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」に名称変更。

2015

## 「ツール・ド・フランス・サイクルシティ」ラベル

- ツール・ド・フランスを主催する団体から、ヨーロッパ域外の都市で初めて、本市が「自転車を促進するための計画的な政策を持つ自治体」の認定を受けた。



2019

新型コロナウイルスの影響で開催見送りに。

2020・2021



## 3年ぶりの開催

サイクルフェスタでは過去最高2万8,067人の来場を記録。

2022

- 2024年は初めてさいたまスーパーアリーナのメインアリーナを通過!迫力の走りをお楽しみに!

2024

## 累計大会来場者が100万人を突破!!

市内の経済効果は累計69億円に。

2023

